



北陸

七國志

五



13  
2861  
5

北国全太平記卷之第五



目錄

力<sub>子</sub>祿坂退口合戰

附 山崎長門守吉家討死事

齊藤龍興權守道景以下討死事

信長被葬權守道景首事

義景軍議事

築山入道自害事

平泉寺衆徒心喪事

明治三十年  
十月十八日  
購

伊  
門  
號  
卷

賣七  
卷之五

一 乗放火 并魚住景固以下出降人事

式部太輔景鏡逆心

并義景被移賢松寺事

賢松寺合戦

附金吾殿寂期事

亥山城攻

附廣德院北方愛王丸寂期事

北国全太平記卷之第五

洛下 後学 馬場信意輯録

刀祢坂退口合戦 附山崎長門守吉家討死事

去程ニ織田信長ハ。天正元年秋八月。江北表ノ合

戦ニ大勝利ヲ得。破竹ノ勢ヒニ。龍虎ノ勇ヲ振ヒ。越

前勢ノ逃ルヲ追テ。一人モ遁サジト馳玉フ。中ニ

モ前田又左衛門尉利家。佐々内藏助成政。戸田半

右衛門尉岡田助右衛門尉。下子助三郎。下方允近。

福富平左衛門尉。赤座七郎右衛門尉。高木左吉。湯

浅甚介等真前ニ進ミケルガ。敵ハ足壇口。中河内

口ト。二方ニ別レテ引行キ候。何方ニ付テ追カケ

候ハンヤト云フ。信長聞シ召。必定敵ハ足壇。敦賀  
ノ兩城ヲ足ガ、リニト志シ。足壇口ヘゾ退ンス  
ラン。其道ヨリ追カケヨト下知シ玉フ。士卒等我  
先ニ高名セント。足壇口ヨリ。刀祢坂ヲ志シ。引後  
レテ落ル雜人原ヲ。討取ク追カクル。茲ニ山崎長  
門、守吉家ハ。朝倉家ノ武進モ今ハ是マデナリト  
覺ヘケレバ。今夜ノ後殿ニ。太刀ノ金ノツバカン  
程。目ガ、レシキ軍シテ。討死セント思ヒ定メ。  
故郷ニ今夜計リノ命共知ラテヤ人ノ我ヲ待ラン  
ト。古歌ヲ思ヒ出テ。口ズサミケレバ。仙山ノ河合安  
藝守宗清取リ敢ス。

古モ係ルタメシヲ菊川ノ同レ流レニ身ヲヤ沉メン  
ト。是モ古歌ヲ思ヒ出テゾ口ズサミケル。詫養越  
後、守行忠ハ。憎落ニテアリケレバ。矢立ノ硯ヲ取  
出シ。落行味方ニツケテ。詩一首ヲ故郷ヘゾ送り  
ケル。

萬恨干悲有。萬然  
故郷更莫成。愁淚

誰圖今夜瀟黃泉  
屍曝戰場只是天

去程ニ寄手ノ先。駈佐々。前田、戸田、津田、下方以下。  
真前カケテ進ム程ニ。難ナクカ祢坂ニテ追ツキ  
タリ。引立タル勢ノ辟トシテ。山挾ノ綱道トモ云  
ハズ。馳重リケル程ニ。或ハ谷ヘセキ落サレテ。手

足ヲ損ジ又ハ高岸ヨリ馬ヲ馳倒シテ其マ、討  
ル、者モアリ。太刀物具ヲ打捨テ逃延ントスル  
者ハアレド。返シ合セテ戦ハントスル者ハナカ  
リケリ。佐々。前田。下方以下ノ寄手ノ勢。引行。敵ニ  
共ト付逃サジト攻立ル。山崎長門守吉家父子。金  
鉄ノ兵ヲ相従へ。刀祢坂ノ峠ニテ取テ返シ。多勢  
ノ中へ破テ入り。天維モ落ヨ。坤軸モ碎ケヨト。喚  
キ呼ンテ相戦フ。寄手ノ勢其勇氣ニ當リガタク。  
バツト散テ遠矢ニ射レバ。閉々ト引退ク。又付慕  
へバ取テ返シ。縦横無碍ニ馳立テ。追マクリ返シ  
合セ。刀祢坂ノ峠ヨリ。足壇マデノ間ニテ。五六度

マデ取テ返シテ戦ヒケレバ。身カ今ハ疲レ果山  
崎長門守吉家ヲ始メ。同。小次郎吉次。同。七郎左衛  
門尉吉延。舍弟肥前守吉健。同。苗阿長。同。珠寶坊。和  
田三郎左衛門尉。同。傍左衛門尉。鱒淵將監吉廣。壁  
田圖書吉澄。同。七郎兵衛尉吉房。神波九郎兵衛尉  
吉久。田尻十郎左衛門尉。秀勝。百嶋亥五郎吉尚。山  
内弥六左衛門尉。岩崎宗左衛門尉。清水三郎左衛  
門尉。増井五郎左衛門尉。禾田總共衛尉。宗俊。三段  
崎六郎。身井與七郎。以下悉ク。討死ヲゾ。遂タ  
リケル。

齊藤龍興。權頭道景以下討死事

既ニ横雲立分シ。夜モホノぐト明行ク処ニ。又寄  
手ノ勢。手シケク追カケシカバ。朝倉三郎景胤同  
掃部助景氏領他同。孫三郎景健以下。敗軍ノ兵ヲ  
集メ。静々ト取テ返シ。敵二三百騎ガ中へ。面モ振  
ズ突テ入り。東西南北へ破テ通り。四方八面ヲ拂  
ツテ切り廻レバ。寄手ノ勢辟易シテ。戦ヒカ子テ  
見ユル処ニ。木下藤吉秀吉。五百騎バカリニテ横  
合ニ咄ト喚テカケ入り。爰ヲ捫ヤ者共ト。霹靂碎  
ケ雷震山ヲ劈ク勢ヒヲナシテ。火水ニナレト突  
立ル。朝倉方ハ落武者ト云ヒ。疲レ果テタル者共  
アレバ。勇氣就ニ尽テ。朝倉土佐守景行同。孫四郎

同。掃部助景氏。河合安藝守宗清。朝倉權守道景。  
城ノ 詫箒越後守行忠。一色治部太輔。神波官内助。  
海江左京亮久保田將監中村五郎右衛門尉同。三  
郎兵衛尉同。新兵衛尉。小泉四郎左衛門尉。青木隼  
人。細目木治部丞。伊藤九郎兵衛尉。足壇六郎三郎。  
長崎大乗坊以下。五百余人討死ス。前ノ養濃ノ国  
主。齋藤右兵衛太夫龍興ハ。信長ニ戦ヒ負濃州没  
落ノ後ハ。越前ニ来リ。朝倉家ニ奇食シテ居ラレ  
ケルガ。此トキニ討死シテ。首ハ氏家左京亮ガ郎  
等官川但馬討取りケリ。朝倉孫三郎景健安土  
同。三郎景胤ハ。敵中ヲ切り拔ケ落来リ。大将ノ御

行末ノ心許ナク。是レテ遁レ參リ候ト云フ。義景  
同王ヒ。吾敵ニ追詰ラレテ。若生捕ル、者ナラバ。  
悔ルトモ甲斐アラジ。只軍中ニテ腹ヲ切り。屍ヲ  
戰場ニ曝サント。馬ヲ引返シ玉ヒケルヲ。身井高  
橋馬ノ七寸ニスカリ先木目ニテ御退ナサレ。其  
所ニテ勢ヲ揃へ。一戦ナサレ候ヘト。大ニ諫メテ  
義景ノ馬ヲ引立落テ行ク。兼テハ金崎ノ城へ打  
入ルベジト思ハレシカドモ。城主朝倉權守道景。  
今夜早討死シヌレバ。其モ叶ハス。柵野三郎右衛  
門尉吉仍ガ足壇ノ城ヲ始メ。山中。豎石ノ兩城モ。  
早開退シカバ。此上ハ印牧丹後守能俊ガ。木目ノ

鉢伏ノ城ニ楯籠ラントテ。木目峠ニテ落著レケ  
ルガ。此所ニテ敗軍ヲ集メ。一防ギ戦ベキカ。又鉢  
伏ノ城へ籠ルベキカト胥議セララル、処ニ織田  
ノ朝倉兵庫助景綱某ハ何トモ愚案ニ落ス候ト  
云ヒ捨テ。馬引寄打乘落テ行ク。是ヲ見テ臆病神  
ノ付タル軍勢共。又崩レ立テ落行シカハ。義景終  
五六騎ニナリ漸ク敦賀ニ落著。翌日府中ニ至リ。  
翌十五日。府中ヲ立テ。一乘ノ谷ヘト急ギ玉ヘド  
モ。此二三日馬ヲモ然々飼サルユへ。歩ミ煩ヒケ  
ルヲ。豈ヲカケ策ヲ打引立ク落行程ニ。其日モ夕  
陽ニ及ジテ。這々一乘ニゾ落著玉ヒケル。

信長被葬權守道景首事

去程ニ平信長ハ大嶽ヨリ敦賀ノ津マテ追討ニ  
シテ首級ヲ得玉フコト三千八百余イカメシク  
ソ見ヘタリケル此間兩日ニ大嶽下野月瀬志津  
ノ高田神田邊足壇堅石敦賀若州ノ粟屋カ押ヘ  
ノ附城ニ至ルマテ十ヶ所ノ敵城悉ク開退シカ  
バ信長悦喜限リナク敦賀ニ暫ク滞留アリ人馬  
ノ息ヲソ休メラレケル茲ニ朝倉家ノ印牧弥六  
左衛門尉ト云フ太剛ノ士生捕レケルヲ信長渠  
ハ聞及ビタル勇士ナリ命ヲ助ケテ召ツカハバ  
ヤトテ以前朝倉家ニアリシ前波九郎兵衛尉吉

繼ヲ以テ云ハセラレケレドモ印牧忠臣ノ節儀  
ヲ守リ自ラ請ウケテ自害ヲゾシタリケル此ト  
キ又犬間源三長吉ト云フ者首一ツ搜ケ来テ太  
將信長ノ實檢ニ入ル信長前波ヲ召テ是ハ何者  
ゾト問ヒ玉ヘバ吉繼一ト目見テ泪ヲハラクト流  
シ是ハ朝倉家宗徒ノ一族金崎ノ城主權守道景  
トテ今年十六歳越前無双ノ養父人ニテ候ヒシ  
ト申ス其トキ信長近ク持来レト宣ヒテ彼顔ヲ  
ツククト御覽シテ扱モ死セル面影サヘ世ニ養  
シク覺ルナリ存命ノ容貌如何計リソヤト想像レ  
テ哀レナリ汝此者ヲ生捕リ来リテハ可畏キ忠



節ナルベキニ。情ナクモ討ケル者カナトソ宣ヒケル。諸士立寄テ此首ヲ見ルニ。髻ノ白ヒ芬々トシテ。三春ノ花ヨ一村雨ノ音信テ後紅色既ニ変リ。風ニ順フ海棠ノ眠レル花ノゴトクナレバ。サシモニ猛キ武士モ。皆涙ヲ催サスト云フコトナシ。其後信長衆僧ヲ請ジ。近邊ノ山寺へ葬礼ヲ管ミ玉ヘバ。誠ニ仁義ノ良将カナト。諸人是ヲ感ジケリ。

義景軍議事

去程ニ瓦衛門督義景ハ。十五日ノ晚景一乗谷ノ城ニ。飯リ入り玉ヘドモ。前々ノ飯陣ニハ引替テ。

城中蕭條寂寞トシテ。紅顔花ノゴトクナリシ女房達モ。一朝ノ嵐ニ誘ハレル心地シテ。先ダツ者ハ涙ナリ。林頭ニ星ヲツラ子シ諸臣モ。何地ヘカ落失セケン。馳参ル者モ稀レナレバ。世ノ中ノコト何トナリヌラント。尋子問ルベキ便リモナシ。抑吾身如何ナレバ。斯マデ佛神ニモ放タレヌラント。前業ノ程モ浅猿夕思ハレケレバ。一族式部太輔景鏡身井高橋以下ノ者共ヲ集メ。義景運命既ニ尽テ。斯敗軍ニ及フコト。是全ク戦ヒノ咎ニアラス。天吾ヲ滅ホセリ。如シ當家累代ノ重器ヲ取り集メ。悉ク焼捨テ。明月信長寄来ラハ。敵陣ニ

カケ入り。屍ヲ軍門ニ曝シ。恨ミヲ再生ニ報ンニ  
ハトテ。愛主殿トテ今年四歳ニナリ玉ヘル。寂愛  
ノ一子ヲ呼出し。膝ノ上ニ懐キノセ。後レノ髪ヲ  
搔撫テ。泪ヲ一目ニ浮メ。汝未ダ幼稚ナレバ。吾ニ  
死後レ敵ニ生捕レテ。憂目ニ逢ンモ心ウカルベ  
シ。合戦ノナラヒ。若又吾敵ノタメニ掬トナリテ。  
汝ニ先立死スルナラバ。生前ノ思ヒ忍ビカタカ  
ラン。然ル上ハ汝ヲ先ダテ。心安ク明日ノ軍ニ  
討死シ。九原ノ苔ノ下。三途ノ露ノ底マテモ。父子  
ノ思愛ヲ捨シト思フナリトテ。衣ノ袖ニテ泪ヲ拭  
ヒ。右ノ手ニ刀ヲ提ケ。既ニ指殺サントシ玉フヲ

寵臣鳥井兵庫助景近ツト出テ押止メ。暫ラク御  
待候ヘ。夫生ヲ全フシテ命ヲ待コトハ。遠フシテ  
難ク。死ヲ輕ンジテ節ニ臨ムコトハ。近フシテ安  
ク候。先ツ誓ク御家ノ重器ヲ焼捨スシテ。御曹司  
ノ御生善ヲ御待ナサレ。何方ニナリトモ究竟ノ  
要害ニ引籠ラセ玉ヒ。命ヲ際ノ防戦ヲナサレ。其  
上ニテモ叶ハザランニハ。免モ角モ御心ニ任セ  
ラルベケレ。百戦敗レテ一戦ニ利ヲ得ルハ。士ノ  
習ヒニテ候者ヲト申レケレバ。義景理ニ服シ。然  
ラハ當城ハ累代相傳ノ所ナレバ。爰ニテ敵ヲ待  
受ケ。防戦ノ術ヲ尽スベシトゾ宜ヒケル。其トキ

海江大助長逸進ミ出。仰ニテハ候ヘドモ。當城  
 六御先祖英林寺ノ入道殿ヨリ以來。今ニ至ツテ  
 百余年。繁榮ヲ極メサセ玉ヘハ。屋形ハ養麗ヲツ  
 クサレヌレドモ。古ニハ夏変リ。當時ハ鉄炮世ニ  
 ヒロマリ候ユヘ。防クニ不足ノ要害ト覺ヘ候。同  
 ジクハ某ガ居城。金津ヘ御開キ候ヘカレ。定メテ  
 信長ハ。府中ニ居陣ラゾ仕リ候ヒナン。然ラハ路  
 ノ程十里ニシテ。其間ニ黒龍川。足羽川。鱒江川等  
 ノ大河多ク候ヘハ。敵容易クハ寄来ルマヅク候。  
 其上三国府中ヨニ櫻井新龍衛門尉元忠。長崎橋  
ト。金津トノニ黒坂備中守等罷リアリ候。又豊原  
間ニアリ

寺ノ衆徒モ味方ニ志シ深ク。加州ヘハ僅三里ヲ  
 隔テ候。是又本願寺ノ頭如上人ノ御嫡教如上人  
 ハ當家ノ尊君ニトノ御兼約候ハスヤ。加州ハ本  
 願寺ノ分国ユヘ。當時ハ國中御味方ニテ候ヘハ。  
カタク旁以テ宜シク存シ候ト云フ。時ニ朝倉式部太輔  
アキヒロ景鏡海江殿ノ宜フ処モ一理ナキニハ候子ドモ。  
ソレガ願ハクハ某ガ居城。大野ノ亥山ヘ御越シナサレ  
 候ヘカレ。其ユヘハ。金津ヘハ是ヨリ行程八里ニ  
 シテ。然モ平地ニテ候ナリ。敵ハ三方余騎ト承リ  
 候ヘバ。其多勢ヲ以テ。半途ニシテ横合ニカ、リ  
 ナバ。由々シキ御大事ニシテ。其トキ後悔ストモ

甲斐ナカラシカ。又大野へハ是ヨリ儘五里ニシテ。然モ太山ト云ヒ。峻隘自然ノ要害ニテ候ヘバ。切所ニ相支ヘテ。防ギ戦ヒ候ハ。信長假令摩利支夫ノ再来ニモセヨ。ヤハカ攻破リ候ベキ。又牛首西谷ノ兩道候ヘバ。加賀ノ国ノ通路金津ヨリ。細呂木ノ手遣ヒモ。自由ニテ候ベシ。殊ニ平泉寺ハ。當家教代御皈依ノ寺ニテ候ユヘ。衆徒等無二ノ御味方ヲ仕リ候ハ云スル上ハ。大野ニ勝ル処候マシト申シケレハ。義景聞玉ヒ。然ラハ夏山へ赴クベシ。此上ハ何ゴトモ。式部太輔計ラヒタルベシトゾ宣ヒケル。

築山入道自害事

大将義景一乗ヲ没落シ玉フゾト云フ程ユソアレ。谷中ノ老若男女。周章騷キ位悲ミ。上ヲ下ヘト返シテ。葦籠長檣ヲ荷ヒ。子ヲ倒レマニ負ヒ。手ヲ引腰ヲ押テ。右往左往ニ進行躰。目モアテラレヌ分野ナリ。斯テ義景ハ。八月十六日。殘兵等ヲ相從ヘ。一乗ノ谷ヲ出玉フ。式部太輔申ケルハ。當家殺代居城ノ地ヲ敵ニ棄ハレ。他ノ居館トナサン。貞ノ無念ナレバトテ。士卒ヲ遣ハシ。神社佛閣民屋等ニ至ルマテ。悉ク焼拂フ。爰ニ朝倉家ノ士ニ。築山清左衛門尉入道トテ。老武者ノアリケルガ情

其ノ様ヲ案ズルニ。朝倉家當國ヲ治メ玉ヒ。今ニ  
至ツテ既ニ五代加州若州幕下ニ属シ。威ヲ三介  
國ニ振ヒ玉フト云ヘドモ。是皆天道ハ滿ルヲ虧  
ノ理リナリ。其不肖ノ身ナリト云ヘドモ。厚恩ヲ  
蒙ツテ。齡已ニ七旬ニ余レリ。今ヨリ後ナガラヘ  
タリトテ。何程ノ思出ノアルベキゾ。慙ニ長生シ  
テ。武運ノ尽ルヲ見シモ。老後ノ耻辱ナルベシト  
テ。朝倉ノ屋形ニテ。已ガ妻ト七歳ニナレル男子ト  
ヲ指殺シ。館ニ火ヲカケ。腹搔切テ死ニケリ。此一  
乘ノ谷ト申ハ。朝倉敏景入道英林寺宗雄居士當  
國ヲ伐取リ玉ヒレヨリ。以來既ニ一。百餘歳繁昌

ノ所ナレバ。金銀珠玉ハ云フニ及ハズ。種々ノ財  
寶元滿タリ。中ニモ累代重器ノ砲貝朝日夕日ノ  
鏡トテアリシガ。滅亡スベキ凶兆ニヤ。何方トモ  
ナク失ニケリ。義景ニ相從フ者共ニハ。一族式部  
太輔景鏡櫻井新左衛門尉元忠。鳥井兵庫助景近。  
高橋新介景倍。藤田忠左衛門尉築山小五郎。平井  
三位父子三人。山内七郎左衛門尉父子。加藤新三  
郎ナリ。愛王殿ハ一尅ハカリ先立テ出玉フ。供ニ  
ハ小河父子。半田宗共衛尉父子三人。小河六郎左  
衛門尉乳母ノ齊藤兵部丞。同新三郎。今藤源三郎  
九津見清右衛門尉。西山ノ僧真勝ヲ召具セラレ

義景ノ母廣徳院殿ニハ窪田新右衛門尉中村平  
五郎石来民部丞上田五郎左衛門尉相從ヒ參ラ  
セケリ。八月十六日ノ巳ノ尅ニ皆々下乗ノ谷ヲ  
出玉ヒ何所ヲサシテ行水ノ流レノ末ノ細木川  
洞毛露モハラヒカ子急ゲド同ジ道芝ニ市浪ノ  
里コハ清水落ル心ノ浅谷ヤ今ソ命ノ堺寺死シ  
テノ後ノ身ノ程ヲ思ヘバ如何大ル憂目ニカ大  
官スキテ罪咎ノ重サヲカクル權衡石坂ノ峠モ  
打越テ名ヲ聞ダニモ怖口シキコヤ淨破利ノ鏡  
山ヨウロノ村モ近ク見テ其夜ノ成ノ尅ハカリ  
大野ノ亥山ニ程近キ東雲寺ニゾ著レケル

平泉寺衆徒心變事

去程ニ左衛門督義景ハ敗矢總七百餘騎ヲ從ヘ  
テ東雲寺ニ落著レケルガ先書ヲ送リテ平泉寺  
ノ衆徒ノ心ヲ窺ヒ見バヤトテ

熊以一札令啓達候仍於江州北表及合戦候處  
不慮之外當方之士卒令敗北之條至此郡聚族  
黨重而可勵一戰然者貴寺一統而廻籌被拙忠  
功者宜依恩賞聖者也誠惶謹言

元龜四年八月十七日

平泉寺

衆徒中

朝倉 義景

斯ノゴトクニ認メテ黄金名筆ノ繪讚ヲ相添テ  
 ザ送ラレケル去レバコノ信長ハ心早キ大将ナ  
 レバ。鯖波ノ宿ニ著陣ノ節。平泉寺豊原寺へ竊ニ  
 祈禱ノタメトテ黄金百兩宛送ツテ云遣ハサレ  
 ケルハ。朝倉金吾コト。勅命ニ背キ敵慮ニ違フコ  
 トアルニヨツテ。征討ノタメ。信長當国ニ進發ス  
 ル処ナリ。貴寺ノ衆徒ハ。義景ニ一味スベキヤ。又  
 勅命ニ従フベキヤ。味方ニカヲ合セナハ。藤嶋七  
 郎ヲ平泉寺へ寄附スベシ。若逆徒ニ與セバ。朝敵  
 タル上ハ。堂塔坊舎悉ク破却セシメ。僧徒兒小法  
 師マデ。一人モ残サズ首ヲ刎ベシトナリ。又豊原

寺へハ。味方仕ルニ於テハ。坂北郡ノ内ニテ。寄進  
 セラルベシトナリ。去ニヨツテ。平泉寺ノ衆徒等  
 衆燈堂ノ大庭ニ會合シテ。會議シケルハ。今般朝  
 倉殿江北合戦ニ打負ケ。一乘ニモタマリ得ズ。亥  
 山ニ楯籠ラル。由風聞ス。是天運ノ然ラシムル  
 処ナリ。國王ト云ヒ大檀那タル上ハ。大衆心ヲ一  
 ツニシテ。忠節ヲ勵ムベキ時ナレトモ。先立テ信  
 長衆徒ノ心底ヲ問ル。コト。當寺ノ安否此トキ  
 ニ究マレリ。山門ヲタニ焼亡ス程ノ猛將ナレバ。  
 一味セザルニ於テハ。當山永ク破滅シ。衆徒等一  
 人モ死ヲ道ル。コトヲ得ベカラズトテ。仰ニ従

上御味方仕ルヘキ由領掌ヲゾシタリケル然ル  
 必ヘ義景ノ使者平泉寺ニ来リシカトモ早織田  
 方ヘ一昧セシコトナレハ返事ニモ及バス使者  
 モ未夕飯ラサルニ講堂常行堂ニ集ツテ箱ノ渡  
 大渡ヲヤ留ムル又四ノ村日嶋ニ要害ヲヤ築ク  
 ベキイヤク先交山近邊ヲ放火シテ敵ノ色ヲ立  
 ヲトテ大衆等我先ニト打立テ近里ノ民屋ニ火  
 ヲ放ツ使者逃取ツテ斯ト告ケレバ式部太輔大  
 ニ驚キ騒ギ加州ノ道筋ヲ取リ切ルハノミナラ  
 ズ片腕トタノミタル平泉寺ノ衆徒ハ敵トナリ  
 又コハ如何セント仰天シ色ヲ変ビテゾ居タリ

ケル

一 乗放火 伊魚住景固以下出降人事

係ル必ニ織田方先手ノ軍勢共一乗谷ニ乱入シ  
 同キ十八日ヨリ二十日マテ朝倉ノ館ヲ始メ諸  
 士ノ家々神社佛閣僧坊民屋焼残リシ必共ヲ一  
 宇モ残サス焼拂フ伎猿カリシコト共ナリ朝倉  
 五代ノ繁昌モ名ノミ残レル狗ノ馬場春風暗ニ  
 庭前ノ樹ヲ剪リテ根サヘ残ラヌ柵ノ馬場イミ  
 シク造リシガハレシ右鶴ノ間猿猴ノ間モ一時  
 ノ灰燼トナリ果又数奇屋ノ跡ト覚シクテ千種  
 ノ色ヲアラソヒ荊棘芝蘭茂リ合ヒ郊原寂莫ト



レテ。ノコトモ知ラヌ。奇巖奇石。崎千テ細雨。  
斜ニフリソノギ。回祿ノ余煙カスカナリ。東楼ニ  
月ヲ弄ビレ人。月ハ看ラヌ。月ナレド。身ハ何國ヘ  
カ去リヌラン。兵主滅ビテ。後姑蕪墓ノ露。滾々夕  
リ。奈皇空ク去テ。感陽官ノ烟片々タリ。誠ニ目前  
ニカ、ル盛衰ヲ見ルコトヨト。アヤレノ賤男賤  
女マテ。袖ヲレボラズト云フコトナレ。一年公方  
義昭卿ノ渡御アリテ。月モ忘ルナト詠ビ玉ヒレ  
糸櫻モ。今ハ昔カタリトナリテ。南陽寺モ亡ビ失  
ヒ。絲櫻サヘ切リ尽サレテ。跡カタモナクナリ果  
ス。朝夕門庭ニ紅。往紫來袖ヲ連テ。勝遊シ。春秋

ノ林頭ニ花ニ詠ビ。月ニ醉テ歌舞ヲナセシ樂ミ  
モ。今ハ早晩レカ引替テ。酒宴榮樂ノ悅ノ色ハ松  
風ノ音トナリ耶。耶一吹ノ夢トソ覺ニケル。去ル  
程ニ寄手ノ大将平信長ハ。逃ル敵ニ追スガフテ  
越前ニ乱入シ。敦賀ニ著陣シ玉ヒケルカ。敵ノ敗  
軍未夕集ラサル先ニ。義景ヲ追諾テ計取ルベシ  
ト議セラレケル処ニ。朝倉家ノ重臣魚住備後守  
景固ハ。江州中河内口ノ敵ノ押ヘノ夕メ。義景ノ  
下知ニ依テ。府中ニ残り居タリケルガ。信長ノ勇  
威ニ怖レ。忽心變リレテ。嫡子彦三郎ヲ。敦賀ヘ遣  
ハシ。織田家ヘ降ヲ乞テ申ケルハ。義景ハ早十六

日ニ。殘兵等少々相徒へ。大野郡へ落ラレ候ユへ。  
一乘谷ハ敵一人モ御座候ハス。急キ御馬ヲ寄ラ  
レ候へレト云ヒ送ル。其外朝倉三郎景胤同孫三  
郎景健等モ。織田方へ降人ニ出ケレバ。信長大ニ  
喜悅シ玉ヒ頼テ前波九郎兵衛尉富田外六ヲ案内  
者トシテ。木目峠ヲ打越へ。鱈波ノ宿ニ著玉ヒ。爰  
ニテ諸方ノ手賦リアツテ。木目峠飯山板取火打。  
湯尾坂ニ軍勢ヲ残シ置レ。同キ十八日。府中鱈波  
四里ニ著陣シ玉フ。其行粧天ヲ響カシ地ヲ動カ  
ス。先代未聞ノ見物ナリ。大将信長ハ。旗本ノ勢五  
千余騎ニテ。府中ノ龍泉寺ニ著セ玉ヒ。此所ニ本

陣ヲ居ラル。諸人兼テ思ヒシニハ様カハリ。近  
邊ノ在家ノ一軒ヲモ放火セラレス。里民一人ヲ  
モ誅セラレサレバ。聞シニモ違ヒテ情アル大将  
カナトゾ感シケル。斯テ信長ハ。先鋒柴田修理進  
勝家イナバ。伊藤入道一徹。不破河内守。氏家左京亮。  
伊賀伊賀守。丹羽五郎左衛門尉長秀以下ヲ。義景  
ノ討手トシテ。大野郡へゾ指向ラレケル。  
式部太輔景鏡逆心。并義景被移賢松寺事  
去程ニ信長思慮ヲ巡ラシ玉ヒ。一術ナサバヤト  
テ。朝倉式部太輔景鏡ト。稍葉伊藤入道一徹齊ハ。  
知音ナリケルユへ。入道ノ方ヨリ忍ビヤカニ使

者ヲ差遣ハサル。此時又前波九郎兵衛尉ニ命セ  
ラレ。篠尾ノ靈泉寺郭翁ヲ相添ヘ。仰遣ハサレケ  
ルハ。義景一乗ヲ逃亡シ。其邊ニ隠レアル由風聞  
ス。御邊ハ武道ノ達人ナル旨兼テ聞及ブ。処ナリ。  
運命尽ヌル義景ニ與シ。永ク家ヲ亡ホサンヨリ。  
當家ニ降ツテ忠節ヲ勵ミ。子孫ノ後榮ヲ計ラル  
ベシ。然ル上ハ早ク義景ヲ討テ出サレヨ。恩賞ハ  
請ニ任スベシトゾ云ヒ送ラレケル。景鏡是ヲ聞  
熟思案ヲ巡ラレケルハ。當家ノ武運既ニ傾キ。國  
人等ハ過半寄手ニ加ハリ。其余ハ敵ノ多勢ニ押  
隔テラル、ユヘ。一人モ馳衆ル味方ナレ。其上當

城ハ究竟ノ要害ナリト云ヘトモ。三方ニハ早敵  
充備ヌ。北一方ハ加州ニシテ。味方ナリト云ヘト  
モ。平泉寺ノ衆徒敵ニナリテ。通路ヲ指塞ギヌレ  
バ。只籠中ノ身細裏ノ魚ノゴトクナリ。今信長ノ  
招キ玉フコソ幸ナレ。義景ヲ討テ恩賞ニ預ラバ  
ヤトゾ議シタリケル。時ニ景鏡カ即等中道寺半  
右衛門。平野源左衛門二人。大ニ制シ諫メシカド  
モ。景鏡曾テ許容セス。同キ十九日ノ夜。東雲寺へ  
使者ヲ差遣ハレ。其許ハ我等ガ居城へ程遠ク候  
ユヘ。委ク密談ヲ仕リガタク候急ギ今夜山田庄  
六坊賢松寺へ御座ヲ御徙シ候ベシトゾ云ヒ送

リケル。義景斯ル。謙トハ夢ニモ知り玉ハス。東雲  
寺ヲ捨テ其夜ノ酉ノ下。尅六坊ヘト急キ玉フ。此  
トキマデモ落残リテ。相從フ者共ニハ。小河三郎  
左衛門尉父子。同六郎左衛門尉加藤新三郎等也。  
母上廣徳院若君愛王殿ノ供ニハ。乳母ノ齊藤兵  
部丞。今藤源三郎。九津見清右衛門尉。西山ノ僧真  
勝等。計リナリ。斯テ六坊賢松寺ニ移リ玉フ。サナ  
キタニ旅寢ハ誰モ物ウキニ。明日ヲモ知ラヌ命  
ナレバ。母上ヲ始メ。女房達ニ至ルマテ。永キ夜ヲ  
皆々泣明サル。曉方ニ。外山ニ鹿ノ鳴。芭ノ聞ヘ  
ケレハ。鳥井兵庫助景近。

理リヤイカテカ鹿モ鳴サラン。今宵計リノ命ト思ヘハ  
高橋新介景倍。是ヲ聞テ取り敢ス。

秋風ニアフタノミユソ悲シケレ。我身空シク成ヌト思ヘハ  
トロクササミケレバ。義景聞玉ヒ。何レモ古歌ナリ  
ト覺ユ。時ニ取テ神妙ナリトゾ感ジラレケル。

賢松寺合戦

附金吾殿家期事

係リケル処ニ。翌レハ二十日未ノ尅計リニ。式部太  
輔景鏡平泉寺ノ大衆ト牒ジ合セ。二百騎バカリ  
ニテ。六坊賢松寺ヘ。不意ニ押寄。関ヲ作り鉄炮ヲ打  
カケサセ。平岡次右衛門尉ヲ以テ如何レテ知り  
候ヒツルヤラン。敵御座所ヲ存ジ。多勢ニテ取リ

卷候御運今ハ是マテナリ。早ク御自害候ベシト云ヒ送ル。義景是ヲ聞玉ヒ。コハ悪キ拳動カナ。巳頓テ悪壺ト成テ。景鏡目父子ヲ取リ殺サテ置ベキカ。三年トモ安隱ニハアラセシ者ヲト。高彦ニノ、シリ玉ヒ。汝等暫ラク防キ矢射ヨ。心静カニ自害スベキゾト宣ヒテ。一間ナル所ニ引入テ。高ヲカニ讀経シ玉ヒテ。後疊紙ヲ取出シ。辞世ノ詩ヲ書玉フ。

七顛八倒

四十年中

無自無他

四大本空

筆ヲ抛ツテ刀ヲ拔持。弓手ノ脇ニ突立テ。妻手ヘ

キリ、ト引廻シ。又胸本ニ突立テ。脇ヨリ下へ切リサケテ。高橋ハナキカ。介錯セヨト呼ハリ玉ヘト。高倍ハ敵ヲ支ヘテ。防キ戦フ最中ナレバ。是ヲ知ラス。加藤ハナキカ新三郎ハ居サルカ。家ニ火ヲカケヨト宣ヘトモ。新三郎モ来ラザレバ。自ラ蠟燭ヲ取テ彼方此方ニ火ヲサシ玉フ。偏身アケノ血シホニソミ。瀧ノゴトクニ流ルレバ。心計リハ変ラ子トモ。氣色モ次第ニヨハリ玉ヒ。更ニ火モ燃付ザリケル処ニ。高橋新介走り来ツテ介錯シ殺ラスル。義景行年四十一歳。元龜四年八月二十日ノ酉ノ尅。朝倉五代ノ繁昌忽ニ滅ビテ。織田

高橋ハ義景ノ首ヲ持出景鏡ガ方へ渡シ頓テ走  
リ飯リ腹カキ切テ義景ノ死骸ニ懷キ付テゾ死  
ンタリケル身井兵庫助景近モ續イテ腹ヲ切ン  
ト思ヒケルガ式部大輔ヲ一太刀討テ恨ミヲ晴  
サバヤト思ヒ彼方此方ト切り廻リケル程ニ多  
勢ノ中ニ取リコメラレ終ニ鳥井モ討死ス義景  
ノ母儀廣徳院殿義景ノ自害シ玉ヘル一間所へ  
来リ至ヒ空ク成玉ヘルヲ見玉ヒテワラハモ早  
晩マテカ存命フベギトテ袷ノ肩ヲ押ヌキ至ヒ  
守リ刀ヲ拔テ既ニ腹ニ突立ントシ玉ヒケルヲ

女房達スガリ付屋形様コソ空シクナラセ玉へ  
御曹司御料人方ノ行末ヲ御覽セントハ思シ召  
スヤ余リニ御心弱ク御入り候者カナト諫メケ  
レバ袖ヲ顔ニ押アテ伏マロビ泣玉ヒケルガ  
其マ、絶入り玉ヒケルヲ様々藥ヲ参ラセ水ナ  
ド御口ニソ、ギシカハ漸ク息出玉ヒケリ  
亥山城攻弁廣徳院北方愛王丸寂期事  
俵ル処ニ式部太輔馳来ツテ廣徳院殿北ノ方若  
君三人ヲ生捕リ参ラセテ亥山ノ城ニ押コメ参  
ラスル此トキマデモ付マトヒケル者共ニハ齊  
藤兵部丞九津見清右衛門尉小河三郎左衛門尉

父子真勝法師ナリ此者共ハ。若君ヲ遁サジガタ  
メ。實ハ景鏡ヨリ。目付トナリテ附居タルコソ無  
道ナレ。母儀北ノ方ヲ始メ。昨日ヨリツヤク物ヲ  
モ茶ラサリケルヲ。九津見近邊ノ在家へ。尋子行  
テ粟ノ飯椽ノ餅ナンドヲ。求メ来ツテ茶ラセケ  
リ。明レハ二十一日柴田修理進勝家。丹羽五郎左  
衛門尉長秀。羽柴藤吉秀吉。前波九郎兵衛尉吉継  
以下五千余騎ニテ。西南ノ口ヨリ押寄タリ北口  
ヨリハ。魚住備後守景固及ヒ平泉寺ノ衆徒等。都  
合六千余騎ニテ押寄テ。亥山ノ城ヲ取リカコミ  
無二無三ニ攻立ル景鏡大ニ驚キ仰天シ。首家ノ

總領義景ヲ討取リタル程ノ忠節ナルニ。斯攻玉  
フハ何ノ咎ニテ候ゾト。様々ト佯言ス。小河三郎  
左衛門尉。前波九郎兵衛尉。彼方此方ト。往返數度  
ニ及ンデ取リ擾フト云ヘドモ。柴田。丹羽以下ノ  
輩曾テ是ヲ聞入レズ。義景ノ夏ハ大将モ助ケ置  
ベレト宣ヒツル者ヲ。景鏡ガ私トシテ總領ヲ討  
シコト。古ノ長田ガ源義朝ヲ討。河田ガ。藤原泰衡  
ヲ弑セシニモ猶勝リタレバ。人非人ゾ只攻干ト  
下知スル処ニ。羽柴藤吉進ミ出テ渠ガ不義ハ惡  
ケレドモ。既ニ。義景ヲ討タルハ忠節ナリ。忠アル  
者ヲ殺サレンニハ。以後誰カ降参ヲ仕ルベキ。皆

々御引候へト制シケレバ。丹羽。柴田以下ノ諸將  
理ニ服シ若君。廣徳院ヲ請取リテ。軍勢ヲゾ引取  
リケル足輕共情ナクモ。女房達ノ衣裳ヲ剥取リ。  
愛王殿ヲアヤシキ藁庭ノ上ニ置ケレバ。サシモニ  
猛キ武士モ袖ヲシボラスト云フコトナシ。斯テ  
前波九郎兵衛尉。若君。廣徳院ヲ請取リ殺ラセ。  
レタル締破レタル笠ヲ著セテ傳馬ニ乗セ殺ラ  
セ若君ヲ乳母ニ懷カセテ自登ニ府中へ入りケ  
レバ。國中ノ男女衛ニ立並ビ。コハ如何ナル御分  
野ゾヤト。色々ニ泣悲ム。只殿場夏臺ニ囚レ。越王  
會誓ニ降セシ。昔ノ夢ニ異ナラスト同キ八月二十

六月。丹羽五郎左衛門尉長秀警固シテ。今左ノ近  
邊飯里ノ堂ニ於テ。廣徳院若君共ニ指殺シテ類  
テ彼堂ニ火ヲゾカケタリケル。去程ニ羽柴安藤  
敵將義景ノ首ヲ籠ニ入レ。足輕共ニ持セ。府中ニ  
来リ。大將ノ實檢ニ入ル。信長悦喜浅カラズ。彼首  
ヲ足付ノ臺ニ吊置。二三月諸軍勢ニ見セラレテ  
後。京都ニ登セ獄門ニカケラレ。其後濃州岐阜ニ  
ゾカケ置レケル。



獄田上總次

平信長

